

|       |                  |
|-------|------------------|
| 施設名   | 神明町保育園           |
| 施設所在地 | 東京都足立区神明2丁目10番4号 |
| 法人名   | 社会福祉法人高砂福祉会      |

## 1. 活動のテーマ

&lt;テーマ&gt;

自然

&lt;テーマの設定理由&gt;

自園は園庭が広く、様々な植物が育っている環境があるため。お子さん達の身近な環境で探求を行い気づきを得ることで、これからも身の回りの様々なことに自ら興味関心を持つきっかけにできればと考えた。

## 2. 活動スケジュール

令和7年6月から令和7年10月まで

&lt;2歳児・3歳児&gt;

6月) 葉っぱの大きさ・形は皆同じ？

7月) 葉っぱから色水は作れるのか？

8月) 身近な食材からも色水は作れるのか？またその色水を使った氷は溶けるとどうなるか？

9月) 野菜から作った色水と粉を混ぜるとどうなるか？

10月) 色水を混ぜたら何色になるか？

&lt;4歳児&gt;

6月) 葉の観察より 葉の仕組みへ気づき 葉のこすりだし

7月) 色水をつくろう 葉から汁を出すために考えながら色水を作る。

8月) 色水をつくろう 野菜から色水を作ってみる。

9月) 泥にふれよう 土の性質から泥団子に向けて探求を深める

10月) 振り返り 季節の移り変わりと変化してきた木々の様子

&lt;5歳児&gt;

6月) 園庭にある葉っぱの観察をしてみる。

7月) 園庭の葉っぱで色水を作ってみよう。

8月) 自分で気になる葉っぱを見つけて、色水を作ってみよう。

9月) 水に野菜を入れるとどうなるかを調べる。

10月) 身近な物で、浮くか沈むかを実験する。

### 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

#### 〈2歳児3歳児〉

採取した葉っぱ（ぶどう・シダ・あじさい・バラ・シロタエギク・オシロイバナ） ルーペ・植物写真・熱湯・透明カップ・野菜（小松菜・にんじん・さつまいも皮・グレープフルーツ・紫キャベツ・レモン） すり鉢・すりこぎ棒・スプーン・浅い箱・画用紙・重曹・小麦粉・ボウル・テーブルクロス・色水（赤・青・黄）・スポット

#### 〈4歳児〉

・採取した葉っぱ・観察ツール（虫眼鏡）・水・色水を入れるペットボトル・コーヒーフィルター・色だし素材（パプリカ 大葉 人参）・バケツ・様々な種類の土・カップ・画用紙・鉛筆・アルミホイル・すりがね・わりばし・ビニール袋・すり鉢

#### 〈5歳児〉

・葉っぱ・紙・クレヨン・虫メガネ・ジップロック・紅茶・緑茶・野菜（にんじん・キャベツ・トマト・ほうれんそう・じゃがいも・ごぼう・グレープフルーツ・みかん）・水槽・模造紙・園内の玩具等自分たちで見つけた道具など。

#### 〈共通〉

映像・記録用のPCとスマートフォン

#### 4. 探究活動の実践

##### <活動の内容>

###### 〈2歳児3歳児〉

6月) 葉っぱの大きさ・形は皆同じ5種類の葉っぱを用意し、見た目やにおい、ちぎったり揉んだりと実際に触れながら葉っぱの観察を行った。

7月) 葉っぱをちぎってからジップロックにお湯を注ぎ色を出し、出来上がって色水を透明カップで観察、ごっこ遊びをした。

8月) 野菜からできる色水を想像しながらすりこぎしたり等変化を観察し、色水を作った。その後、色氷を作り観察、見立て遊びや絵を描いた。

9月) 紫キャベツの色水にレモン汁、重曹を入れて変化を楽しむ。その後、小麦粉粘土に混ぜ込み感触を楽しんだ。

10月) ハンドペインティングや色水を使い色の混ざり合いを観察した。

###### 〈4歳児〉

6月) 葉を採取し、葉の観察を行う。こすりだしを行い、葉脈を調べた。

7月) 色水を作り、コーヒーフィルターで染め絵を作って観察を行った。

8月) 野菜を使い色水を作り、観察を行った。

9月) いろんな土を用意し、感触などを探究を行った。泥団子を作り違いを探した。

10月) 公園に散歩に行き自然の移り変わりに気づき、どんぐりなども使い絵で表現を行った。

###### 〈5歳児〉

6月) 園庭にある葉を自分で採取し、葉っぱの観察を行う。その後、こすりだしを行った。

7月) 園庭にある葉を自分で選んで採取し、色水を作りを行った。

8月) 葉っぱによる色の違いに気づき、紅茶や緑茶の葉っぱから野菜の葉っぱなどを使用し色水づくりを行った。

9月) 野菜を水に入れ、浮くか沈むのかをはじめに予想し、少人数のグループでの実験を行った。

10月) 部屋の中にある身近なものを使い、浮くか沈むかの観察を行った。

### <活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

〈2歳児3歳児〉葉っぱを前にすると自然に手を伸ばし、匂いをかいだり仰いだりするしぐさが見られた。回数を重ねるにつれ、子ども達からちぎる・揉むという行動をして観察をし、葉っぱの質感や匂いをより強く感じ取ることができていた。ジップロックに入れ熱湯を注ぎ、色を出す場面では、変化する水の色に子供たちは興味深く見入っていた。葉っぱの色水よりもオシロイバナの色水の方が興味を引き「おいしそう!」「いちごジュース!」「いいにおい!」と反応していたため、その後野菜の色水へと発展をさせた。出来上がった色水から野菜の特徴を感じたり、それを凍らせた色氷を混ぜて色の変化も楽しむことができた。色の変化に気づき楽しむことが出来たことから、赤・青・黄の三色の色水をつくりジュースに見立ててごっこ遊びを楽しんだ。「いろがかわった!」「〇〇色になった!」「たのしい!」と集中しながら、お子さん達から色の変化について自分たちで気づき、言葉にする姿がみられた。

〈4歳児〉気に入った葉を採取するところから始めた。種類の違う葉を採取することにより、違いを個々に感じていた。偶然にちぎれた葉から、ちぎりやすい葉とそうでないものがあることに気づいていた。なぜそうなるのかお子さん達がふしぎに感じる中で葉脈に引っかかる葉を見つけていた。そこから紙と鉛筆を用意して葉の擦りだしを行った。葉の凹凸に苦戦する様子もあったが、浮き出た葉脈を目で見る体験や、擦りだしのやりづらさが葉の性質の違いによるものだと気づけていた。こすりだしの時に葉から汁が出た経験より、色水遊びにつながった。季節は夏に向い、葉も乾燥していたこと、お子さん達にも喉が乾く感覚が重なり水を多めに入れるお子さんが多く、あまり色が出ない結果となり、コーヒーフィルターでの染め絵では乾いた時に色の変化がほぼ見られなかった。この結果を踏まえて色水遊びを再度行う。どうしたら色が出るのかを話し合位の中で、野菜ならでるのではという意見が出てきた。実際に野菜を使い色水を作ると、思い思いの色水が出来た。探索の対象を土へ移行した。様々な土の種類を五感で感じ、ここに水の量を調整して泥団子を作り、その後も変化を観察した。観察しながら土の性質を振り返る様子がみられた。最終回では、季節の移り変わりを感じ変化した葉や木の実を集め夏の時と違いを振り返った。探求をしていく中で友達と共有して楽しむ姿や自然から野菜土への繋がりを感じた。

〈5歳児〉初めは固さ、匂いや色に注目をしていた。次第に友だちが触っている葉っぱにも興味を持ち、違いを比べていた。保育士が各テーブルを回っていると、実際に見せながら気づいたことを言葉で表現することが出来ていた。擦りだしでは、葉っぱの葉脈がある事に気づき、そこから上手に葉脈が出ているお友だちの様子から、葉脈に向きがあり擦る向きで出やすさが変わることにも気づき活用できていた。色水を作る中で、友だちと見比べ、「色がいっぱい出てるね」「あんまり色が出なかった」など意見交換を自分達から発信し行う姿がみられた。「どうしてだろう？」と声を掛けると「葉っぱによって違うかもしれない」ことに気づき、「固い葉っぱは色がでなかった」等自分たちで結果から考えることが出来ていた。その活動の中で、葉っぱが水に浮いている事にも気づき、野菜の浮き沈みの実験に繋がった。野菜の浮き沈みでは、はじめに自分たちで収穫をしたピーマン、じゃがいもをお手本として見せ、予想を聞いて行った。これまでの経験から、重い物は沈むのではないかと予想をしていたが、キャベツ・ごぼうなど予想に反して沈むもの・浮くものもあり、お子さん達は驚きながら観察を行っていた。「最初は沈んだのに浮くもの」「沈みもせずに浮いたもの」など、細かい変化にも気づくことが出来ていた。最後に実験をした野菜とその結果をそれぞれのグループに発表してもらい、もう一度どうして浮くのか沈むのかを聞いた所、「沈むものは固いものではないか？」という意見から固い物、ふわふわした物とグループ分けを行い、固い物が全部沈んだことに気づくことが出来た。その後、部屋にあるもので浮くか、沈むかを予め予想をした後に実際に水に入れてみると、入れ方によって浮いたり沈んだり、浮くものをわざと沈めてみた後の変化などにも気づく事ができていた。



## 5. 振り返り

### <振り返りによって得た先生の気づき>

#### 〈2歳児3歳児〉

身近な素材を使った葉っぱの観察から始まった活動ですが、最初は「2歳児、3歳児なので」と固定概念が先に来てしまい、進め方や声掛けが難しくとまどいました。しかし、活動を進めていく中で、子ども自身が発見したり驚いたり、不思議・気づいていく姿を見ることが出来、保育者自身が子どもの成長・無限の可能性を改めて知り、テーマを広げていくことにつながりました。回を重ねていく度に子どもと一緒にワクワクし、計画も準備も楽しくなりました。この活動をきっかけに子どもたちの探究心がいかに深く、そして日々の成長を大きく感じ、知る事が出来たのはこれからの子どもとの関りが、より良いものになっていくであろうと改めて実感しています。また、この活動をきっかけに子どもへ提供する遊びも変わりました。子どもがどんなことにワクワクするか、月齢に対し「思っているより難しいかな？」位でも喜んでチャレンジする姿は大きな発見であり、この発見を今後も大切にしながらより良い保育を提供して行けるよう工夫。

#### 〈4歳児〉

普段、興味はあったがじっくりと関わる事が少なかった素材を五感で感じながら自分たちなりに試してみて、〇〇なのでは？と発想を広げる姿が多くみられ、自分の言葉では伝えきれない感覚を友達の言葉から納得したり交換しあったりする姿があり、この探求する楽しさを引き続き生活の中で取り入れていきたい。

#### 〈5歳児〉

園庭の葉っぱを使って実験をしたことから、園庭の草木に対して一層興味を持つことができその後も栗やみかんの実りを観察したり、金木犀の匂いに気づき、水に入れて色水を作ってみたりなど主体的に行う姿が見られている。浮き沈みの実験をした後には「お風呂でタオルが浮いた」「料理のお手伝いをしている時に〇〇の野菜は沈んでいた」などの発見を教えてくれるお子さんもいた。5歳児では、気づきからどうしてだろう？と考える力が身についており、そこから発展をさせていくことが出来ることを知った。保育士から答えを伝えるだけでなく、主体的に考えて気づくことの大切さを改めて感じた。今後も、子ども達自身がいろんなことに気づき発見をしていけるように働きかけを心掛けていく。